



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 356

März 2021

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2020年度を振り返って

会長 栞田 義一

2020年度は年度初めの4月7日に兵庫県下に新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」が発令され、それ以降コロナ禍のために協会本来の活動が出来ない1年間でした。

5月の定例総会は初めての「書面決議による総会」となり、「神戸日独協会設立80周年」と「ドイツ統一30周年」の記念行事も断念せざるを得ませんでした。このほか予定されていたドイツからの諸交流団の来日中止、ビアフェストやクリスマス祝賀会など恒例の諸行事や催しも「三密の回避」「外出自粛」等のために開催できませんでした。しかしコロナ禍にも拘らず協会の主活動の一つであるドイツ講座とドイツ文化教室はオンライン授業の導入・併用により一年間継続的に開催することが出来ました。行事・催しが開催できませんでしたので、会員方との交流を維持するために「会報」を8月以降毎月発行し、特別コーナー「感染防止期間特別企画『自宅でドイツを楽しもう！』」を設けてきました。会員皆様のご理解とご協力をいただきまして、協会の存続と維持のための最小限度の活動を行うことが出来ました。会員皆様に心よりお礼を申し上げます。

3月10日現在兵庫県下では新規感染者数は二桁台前半で下どまりしていますが、ホームワーク、外出自粛、飲食店などの時間制限等々が引き続き求められ、不自由な生活と感染への懸念が続いています。ワクチン接種が始まったとはいえ、感染が収束に向かいコロナ禍以前の日常が元に復することは今しばらくは期待できない状況です。

現在協会では新年度の活動の企画を検討しています。昨年は協会と会員との交流、会員相互の交流、ドイツ渡航(希望)者とドイツからの来神(希望)者の支援、そして何よりもドイツに対する興味・関心の喚起・維持について協会本来の活動が出来ませんでした。しかしながらこの1年間コロナ禍の下での活動を経験し、様々な活動の新たな可能性も見えてきました。webを活用したオンライン授業・会員相互の交流や広報活動などを検討して、計画を立案中です。

コロナ禍以前への見通せない復活を待望するのではなく、コロナ禍でのそしてコロナ禍後を見据えて、コロナ感染防止に十分な配慮をしながら、新年度は会員皆様に対面で参加していただける活動を行いたいと思います。神戸日独協会の今後の活動に是非ともご意見をお寄せください。

神戸日独協会の新年度活動予定

1. **ドイツ語講座・ドイツ文化教室**は、現状の授業体制を継続して4月5日から開講し、対面授業で行います。感染状況が再び悪化した場合には、オンライン授業に移行します。クラスの事情により対面授業併用もありますので、その際には改めてご連絡いたします。
4月からの第Ⅰ期の開講授業については、同封のパンフレットをご覧ください。
2. **会報の発行**は4月以降も毎月発行します。
昨年コロナ禍で一時発行中断後の8月号から特別コーナー「感染防止期間特別企画『自宅でドイツを楽しもう！』」を設けてきましたが、本号でこのコーナーは終了させていただき、新年度からは新コーナーを設けたいと検討中です。8か月間このコーナーにご寄稿していただきました方々にお礼を申し上げます。
会報印刷のための作業室が閉鎖された場合には、メール配信及び協会ホームページ上の掲載のみになります。この際にメール受信を希望される方は事務室へご連絡ください。
3. **協会主催の行事**(ドイツ語講座・ドイツ文化教室を除く)と催しは、昨年度企画をして総会にてご了承をいただきながら、すべてコロナ禍のために実施できませんでした。コロナ禍の影響下でも実施方法の工夫などで実施できるものは復活します。この1年間のコロナ禍の経験から新たな企画を新たな方法で実施できるものを検討しています。昨年の「神戸日独協会設立80周年」記念事業については記念誌発行を新年度に延期します。本年の「日独交流160周年」記念事業については関係機関とも連携して行います。
新年度の行事・催しについては、「総会資料」にて、一部は次号会報にて、お知らせします。
4. 新年度の「**定例総会**」は例年のように5月中旬に開催します。日時・会場については追ってご連絡いたします。
(会長 柘田義一)

予告

神戸日独協会ドイツ語講座特別講座

ドイツ語をより身近に、より深く (仮題)

この1年間コロナ禍のためにホームステイを余儀なくされ、その間にドイツ語を独習された方、学習しようともその機会が得られなかった方もいらっしゃるでしょう。

新年度ドイツ語講座開講を機に、ドイツ語教育に関係する協会理事によって、ドイツ語に対する関心・興味・理解を改めて深めていただける特別講座を開講します。

通常の授業とは異なる観点、情報化時代に即した授業方法により、担当者の専門分野からドイツ語に関する又はドイツ語によるトピックを取り上げることによって、通常の講座では提供できない講座を開催します。4～6月の土曜日午前に、神戸日独協会会議室にて或いはZOOM使用により行います。詳細は会報次号にてお知らせします。

担当理事：杉谷眞佐子(関西大学名誉教授)、Stefan Trummer=Fukada(神戸大学元教授)、
林 良子(神戸大学大学院教授)、柘田義一(神戸大学名誉教授)

感染防止期間特別企画 『自宅でドイツを楽しもう！』

この特別企画コーナーは昨年8月の会報発行復活時に「会員交流の場」として、「ドイツの魅力、素晴らしさを共有しましょう」、「家庭でドイツ料理を作りましょう」、「ドイツ語の広場」を設けました。新年度からは会員皆様に対面での参加をさせていただける行事・催しを開催する予定ですので、年度替わりを機に終了させていただきます。各コーナーにご寄稿いただきました方々には心よりお礼申し上げます。

『家庭でドイツ料理を作りましょう』

不要不急の外出の自粛が求められ、外食を控えて自宅での食事を続けている方の「家食」の献立にドイツ料理を取り入れていただきたくこのコーナーを設けました。これまで協会の料理教室にて度々ご指導をいただいていた料理研究家の日下部管子さんに8回にわたってご連載をしていただきました。ご自身のドイツご留学滞在先のご家庭で習得されたお料理を主としてご紹介をしていただき、それも日本の実情に合うようにアレンジを加えて、まさに「ドイツ家庭でのお料理」をお伝えくださいました。毎回ご紹介いただいたお料理にまつわる軽妙なエッセイをもご執筆いただき、それも大きな楽しみでした。日下部先生には長きにわたりご協力をいただきまして、心よりお礼を申し上げます。今後の協会の料理教室にてご指導いただけるのを楽しみにしています。

第8回「塩漬け豚とインゲン豆の煮込み料理」と

「手作りマスタード」

料理研究家 日下部管子さん

1. 塩漬け豚とインゲン豆の煮込み料理 (Geschmortes gesalzenes Schweinefleisch und grüne Bohnen)

塩漬け豚はドイツの伝統的な保存食で、ほとんどの家庭にある地下の食品庫に行くと、様々な部位の豚肉が塩漬けされ、保存されていました。ドイツの長く寒い冬を乗り切るためにも豚肉は欠かすことの出来ない栄養源であり、塩分によって余分な水分が出て肉の旨味が引き出され、様々な料理に活用されていました。今日のレシピはインゲン豆を使いましたが、他にレンズ豆やひよこ豆など様々な乾燥した豆が沢山 Hellmann 家の食品庫に貯蔵されていました。

2. 手作りマスタード (Handgemachter Senf)

Hellmann 家で習ったこのマスタードは、市販のものよりもはるかに味はまろやかで、ソーセージに添えるだけではなく、ポテトサラダを作るときや、サラダドレッシングを作るとき、時には朝トーストしたパンの上にも蜂蜜と混ぜ合わせて塗っていました。材料のマスタードシードは日本でも輸入食材の店で簡単に手に入ります。イエローマスタードシードはまろやかな味がしますが、ブラウンマスタードシードはピリッと辛くて刺激がとてもきついので気をつけてください。

☆レシピは、調理時の便を考慮して別紙にて同封しています。

『ドイツの魅力、素晴らしさを共有しましょう』

このコーナーは本号にて終了しますが、「共有したいドイツの魅力」がありましたら、引き続き「会員の広場」へご寄稿ください。

会員の広場

ウイルス感染防止のために協会本来の行事・催しが出来ないのも、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。

新年度もこのコーナーは継続しますので、ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

ドイツ語通訳案内士試験に合格しました！

会員 武村 陽子

ドイツ語講座金曜日K2の、クーセギ先生のクラスで楽しくドイツ語の勉強をさせていただいております。

4年ほど前から別の言語で通訳ガイドの仕事をしておりましたが、ドイツ語での資格は持っておりませんでしたので、いつか近いうちに資格を取りたいとは考えておりました。

しかし、2019年は、せっかくドイツ語講座に申し込んでも仕事が忙しくて、なかなか出席できず、休みがちでドイツ語もあまり上達できないまま終わってしまいました。

昨年2020年はオリンピックの予定でしたので、来日する外国人も多く、たくさんの仕事が入っていたのですが、コロナウィルスですべての仕事がキャンセルになってしまいました。せっかく時間ができたので、今のうちにドイツ語のガイド資格を取っておこうと決めました。

通訳案内士の資格試験は、8月に作文、翻訳問題(日本語からドイツ語)と文章読解問題が中心の筆記試験があり、合格すると12月に東京で2次の口述試験があります。

クーセギ先生のクラスは会話が中心で、とにかく話すことに重点を置いてくれています。また、宿題が必ず出され、宿題で作文がある場合はメールで送ると添削もして返してくれますので、話すだけでなく作文の上達にもなりました。

日独協会では、昨年11月に奈良への現地集合遠足も企画させていただき、参加してくださった方を相手にドイツ語でのガイドの練習をさせていただくこともできました。

また、毎月行われているドイツ語談話室での会話も、話す練習になりました。

おかげで、2月に合格発表があり、ドイツ語の通訳案内士の試験に合格することができました。

先生方を初め、皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

コロナ収束まで訪日観光客は期待できませんが、しばらくドイツ語を続けますので、よろしく願いいたします。

Ich habe die Prüfung für Reiseführer auf Deutsch bestanden!

Yoko Takemura

Jetzt lerne ich freitags Deutsch in der Klasse-K2 von Herrn Köszegei.

Ich arbeite seit etwa 4 Jahren in anderen Sprachen als Reiseführerin für ausländische Touristen, aber ich hatte keine Lizenz auf Deutsch. Ich hatte immer gedacht, dass ich in der Zukunft die Befähigung auch auf Deutsch bekomme.

Obwohl ich mich 2019 zum Deutschkurs an der JDG angemeldet habe, hatte ich wegen der Arbeit keine Zeit, um Deutsch zu lernen, und ich musste in mehreren Unterrichten abwesend sein. Deswegen konnte ich leider mein Deutsch nicht verbessern.

Letztes Jahr, also 2020 hatte ich auch wegen der Olympiade viel Arbeit, denn viele Touristen sollten nach Japan gekommen sein. Allerdings wurden alle Touren infolge der Corona-Krise abgesagt. Als ich Zeit bekommen habe, habe ich mich entschieden, das Zertifikat auf Deutsch zu erhalten.

Die schriftliche Prüfung für Reiseführer --- Aufsätze, Lesen und Verstehen, und Übersetzung aus dem Japanischen ins Deutsche --- findet normalerweise im August statt. Wenn man sie besteht, dann kann man im Dezember in Tokio die mündliche Prüfung ablegen.

In der Klasse von Herrn Köszegei haben wir die Gelegenheit viel zu sprechen und er gibt uns immer Hausaufgaben. Wenn wir in der Hausaufgabe Aufsätze haben, können wir sie korrigiert bekommen. Deshalb konnte ich nicht nur Gespräch, sondern auch Aufsätze lernen und verbessern.

Im November konnte ich mit einigen Mitgliedern von der JDG einen Ausflug in Nara nehmen, und ich konnte üben, auf Deutsch zu erklären.

Und die „Deutsche Gesprächsstunde“, die jeden dritten Samstag eines Monats stattfindet, hat mir auch geholfen, um auf Deutsch zu sprechen.

Dank diesen Hilfen habe ich im Februar die Prüfung bestanden und konnte das Zertifikat bekommen!

Ich möchte mich bei Ihnen dafür bedanken, dass ich an der JDG Deutsch lernen konnte. Wegen des Corona können die ausländischen Touristen noch nicht kommen, aber ich möchte weiter Deutsch lernen.

(Die deutschen Sätze sind von Herrn Köszegei korrigiert.)

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

3月11日に東日本大震災とそれによる福島第一原子力発電所事故から10周年を迎えました。東京駐在のドイツ人記者による二つの記事をご紹介します。福島原発事故10年をドイツ人がどのように見ているかを伝える記事です。

失われた「幸福の島」、震災を経験したドイツ人へのインタビューから

会員 山崎 竜司

10年前の原発事故がJürgen Oberbäumerの福島での生活を一変させた。そして、日本があの大災害から何も学ぼうとしないということがその後の彼を苦しめている。福島第一原発から南に50kmの所にあるいわき市の駅前では毎週金曜日に原発反対のデモが行われている。その中に2011年3月11日の津波と原発事故を体験した唯一のドイツ人であるJürgen Oberbäumerもいる。「あの出来事が私のささやかで幸せな生活を終わらせた。日本は原子力エネルギーから離脱することで世界のためのポジティブな推進力となるチャンスをみすみす逃したのです。それがとても悲しいですし、私を悲観的にさせます」と、彼は語った。

35年前、彼はバックパッカーとしていわき駅に下車した。宿探しの際に偶然出会った女性に助けられ、6ヶ月後その彼女と結婚した。現在彼は66歳で、英語教師とドイツの木製の玩具を日本の小売業者に販売している。今はいわき市の北部で妻と小さな借家に暮らしていて、成長した2人の子供はドイツに住んでいる。窓からは広々した谷間が見下ろせ、3月初旬、稲のない田んぼにはまだ冷たい風が吹いている。しかし、このドイツのHerford生まれの彼は、今の家に親しんでいない。「この借家は確かに綺麗ですが、私にとっては前の家がかげがえのないものなのです。」と彼は述べた。前の家というのは、彼ら家族が30年間暮らした四倉近くの伝統的な日本家屋のことで、子供はその家で育ち、妻は庭仕事と家庭菜園を生きがいとしていた。「福島は幸せ (Glück) の島 (Insel) を意味し、そしてあの家こそが私たちにとっての福島でした」と、彼は辛そうに話した。

震災の津波は当時住んでいた土地の数メートルのところで止まり、地震による被害もそれほどはなかった。夫婦は7週間のドイツへの避難の後日本の家に再び戻った。震災で変わった地域の状況と折り合いをつけたまさにその時、家主は彼らに退去を要請した。何千人もの原子力発電所近隣の住民が30km域外の町へ強制的に追い出され、その結果住宅への需要が突然増えていわき市の賃料と土地代は爆発的に高騰した。家主はその土地を売ろうとしたのだ。愛すべき家から退去するのに2年間の猶予があった。「それは憂鬱な時間でした。放射線が原因で私たちは外へ出ることもせず、野菜を育てることもできず、夏に泳ぐことも秋に森へ入ることもできなかつた」と、彼は回顧する。「この期間に楽観的で陽気な性格は、物思いにふける政治的なものへとまりました」。息子の強い勧めに答えて彼は、「福島 — 影の部分」という4冊のシリーズ本の第1冊を執筆し始めた。「今は自分にも連帯責任があると感じています。特に意識しない電力消費者としての責任です。フクシマは独立した出来事ではなく、一連のもの前触れなのです。原発の爆発に私は自分たちのハイテクの生活の本質を見えています。つまり、物事を極端にまで押し進め、あまりにも貪欲で、そして隠れたコストを見ようとしません」。

遠く離れた彼の生まれ故郷ドイツはフクシマが原因で原子力を止めようとしているのに、どうして世界で最も地震が多い国とされる彼の第二の故郷日本は、ウラン原子炉を再整備しそして存続させようとするのか。大災害から10年過ぎてもまだこの疑問が彼の頭を離れない。「最初は、津波と地震とで全く混沌とした状態を短い間で処理する日本人の生きる力に感嘆しました。私の経験では、日本にいる人々は前を向いて進んでいくのが最も好きなのだ」。けれども、何の責任も取られなかったこと、このことがどうしても彼には分からない。つまり、大災害の正確な経過は曖昧なまま

で、東京電力の三人の経営者たちは長い綱引きの後に法廷に現れたが、無罪の判決が下された。「どうして人々は問い質さないのでしょうか？メディアすら決して問い質さないのは何故なのか？」と彼は嘆き、「この日本人の好ましくない半面がひどく私を辛い気持ちにさせます」と述べた。

30年以上を日本で過ごした彼はもちろん日本人のメンタリティーを知っているのでしょう、彼は再び落ち着を取り戻した。「日本の人は難しい問題は専門家に任せて、自分の専門外のことには口を挟まない。そして、多くの日本人は、ヨーロッパの人には想像できない程に「御上」を信じて疑わず、政府の発表する嘘を受け入れるのです」。

それにもかかわらず彼は日本にとどまるつもりである。彼の日本人の妻は高齢の両親の世話をしなければならないのだ。したがって、日々、彼には辛い事実が目に入る：彼にとってかつてあった「幸福の島、福島」はもはや存在しないという事実が。

Deutsche Welle: Fukushima: Verlorene "Glücksinsel" (08.03.2021)より

10年目の福島

柘田 義一

記者は、原発事故10周年の総括で福島県知事が「光に属するのは、放射能レベルが下がったことである。我々は除染を行った、今日では封鎖されているのは県面積の2.4%にすぎない。しかし今なお3万7千人の住民が避難していることが影の部分と言える」と述べた「光と影」に注目した。原発にすぐ隣接する町と北西部の住宅地の大部分、全体としてはほぼ340km²が今日でもなお汚染されている。原発から遠く離れた市町村では以前の住民の30%から60%が戻ってきているが、その中には子供のいる家族はごくわずかしかない。多くの場合放射線を恐れ、多くは新しい居住地に根を下ろした。だから帰還者の多数は老人たちが占めている。帰還者の68歳の女性を取材した。彼女は大災害後すぐに名古屋の息子家族の下に避難したが、「名古屋の料理と食品は福島ほど美味しくなかった」とすぐに故郷の食べ物が恋しくなった。福島食品が再び食べられるかどうかを試してみようと帰還し、現在この夫婦は土地や大気中や食品の放射線量に独自で取り組む市民グループに加わっている。彼女らのデータによれば例えば米や野菜の摂取は心配ないとのことだ。記者は他の帰還老人にも取材し、彼らにとっては自身の土地への連帯感が帰還への動機付けとなっていること、未帰還の理由の一つは高い補償金にあり、それでもって多くの疎開者はどこか他の場所で新しい家を買って、今となってはもう戻ろうとはしないことを知る。

記者は「光と影」を大災害の根源である福島第1原子力発電所でも見ている。融解した燃料の冷却が機能し廃墟がその後の地震に耐えているのが「光」であり、取り片付け作業の進行が放射能のために計画よりはるかに遅れているのが「影」であると。特に放射性トリチウムが含まれている冷却水のタンクが敷地にたまり、その処分方法がまだ決まっていないこと、融解した燃料がどこにあるのかも今だに分かっていない、いわんやどのようにしてこれを安全な場所に移したらいいのかも分かっていない。これらについてTepcoの経営者は差し当たり議論しようとしなくて、「10人に尋ねれば、10の意見がある」との発言を報じている。

福島原発事故を機にメルケル首相はドイツの原発廃止を決断したことは広く知られている。ドイツとは異なりこの日本での原子力大災害が政治上の大きな動きを引き起こさずに、政府は原子力に固執していることを指摘し、アンケートによれば「日本人の多数は原子炉の更なる使用に反対で

あるが、選挙の際にはこのことが影響を及ぼさない」との名古屋大学のドイツ人女性日本学者の解説を紹介している。「1960年代と70年代初期を除いては日本には際立った抗議文化は決してなかった。それどころか政治的な行動主義はこの時代以来ひどく汚名を着せられ、政治離れがこの間にもものすごく高まり、街頭抗議が変化を引き起こすという希望が少なくなった」と彼女は言う。昨年来の合衆国をはじめとする黒人差別反対運動、独裁政権に対するベラルーシ、タイそしてミャンマーをはじめとする民主化運動等々の街頭反対運動が多く報じられている。日本ではこの数年来日本の将来に大きな影響を及ぼす法案が前政権にて可決されたが、当時全国的な街頭行動は見られなかった。このことはドイツ人の日本学者、記者の目には不思議に映っているのであろう。

少なくとも福島では環境保護を標榜する電気に身を置いている。エコ電気の割合は2041年までに現在の40%から100%に上がるという。原子力発電による電気をそこでは決して再び生産しないことが願われていると、記事を結んでいる。

Deutsche Welle: Zehn Jahre nach der Atomkatastrophe in Fukushima (09.03.2021)より。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています)

3月・4月の実行委員会のお知らせ

3月の実行委員会は、メール配信でお知らせしましたように新年度の計画案作成のために、一週間繰り上げて3月14日に開催しました。

4月の実行委員会を下記のとおり開催します。実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。感染予防の上ご参加ください。

日 時： 4月18日(日)15時～ 場 所： 神戸日独協会会議室

事務室からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は4月8日(木)を予定しています。

お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL/FAX 078-230-8150)。

印刷： 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送： 神戸日独協会にて、12:30～

これからの神戸日独協会の催しは、その都度別途「協会ホームページ」でお知らせいたします。

お詫び

会報は第2木曜日の発行ですが、県下の「緊急事態宣言」解除後の感染状況を判断して、本号で「神戸日独協会の新年度活動予定」をお知らせするために、一週間発行を延期しました。お詫び申し上げます。